

防盜性能の評価試験方法

試験の概要

施錠された自動車への侵入開始から、エンジン始動が可能な状態になるまでの時間（耐久時間）を計測することにより、試験自動車の防盜性能を評価しました。車両への侵入については、実際に窃盜犯が用いる方法などを参考に事前調査を行い、最も短時間で侵入できる方法を採用しています。

試験場所

今回の調査研究は、官民合同プロジェクトチームのオブザーバーである（株）自研センターで実施しました。
(<http://www.jikencenter.co.jp/>)



防盜性能評価試験の実施状況

※本写真は試験時のイメージであり、本車両は実際の試験に用いられた車種とは異なります。

試験の手順

自動車盗難を防止する4つの盗難防止装備について、それぞれの耐久時間を計測しました。なお、無効化とは、破壊、分解、取外しなどあらゆる手段を用いて自動車への侵入、エンジンの始動を行う作業を言います。



カーアラームの無効化

試験員が試験工具を使用して、カーアラームを無効化するまでの時間を計測しました。



ドアロックの無効化

試験員が試験工具を使用して、ドアロックを無効化するまでの時間を計測しました。なお、試験はドアのほかトランク、バックドアなど、車室への侵入が可能と思われる全ての箇所に対して試行し、最も短時間で侵入できたケースを採用しています。



ハンドルロックの無効化

(ステアリングコラムロック、イグニッションロック)

試験員が試験工具を使用して、ステアリングコラムロック、イグニッションロックを無効化するまでの時間を計測しました。



イモビライザの無効化

試験員が試験工具を使用して、イモビライザを無効化するまでの時間を計測しました。

